

『現代農業』の歩み



【『農村文化』1949（昭和24）年】
49年春から直接農家の意見を聞き、購読をすすめる直接普及方式を開始。農家の求めるものは「農業技術と経営」であることが明らかになり内容は大きく変わった。



【復刊当時の『農村文化』1946（昭和21）年5月号】
この号では「農村民主主義化」を特集。農文協は『農民に役立つ文化運動』を模索しながら、農村の読書運動を推進していった。



【『現代農業』の前身『農政研究』1922年（大正11年創刊当時）】
当時、小作争議が広がり、社会問題を議論する場として議員、農政記者、学者たちが大日本農政学会を組織し『農政研究』を発行した。



【1985（昭和60）年3月号】
この年、内容大幅改編。前半部に「豊かに食べる」「暮らしをつくる」「世の中を生きる」の3本柱をすえ、家族みんなで読み、話し合えるような雑誌をめざした。



【1969（昭和44）年10月号】
大幅増ページで366頁に。本文・グラビア頁を倍増し、生活・農政ページを大幅拡大。農業技術・経営誌から総合誌へと変わった。



【1960（昭和35）年11月号から『現代農業』に改題】
61年「農業基本法」施行。コメ軽視の風潮のなか、山形の片倉権次郎さんの稲作増収技術が大反響を呼んだ。



【2006（平成18）年5月号】
巻頭特集「耕耘・代かき名人になる」では、名人サトちゃんが新米の耕作君に技術を伝授。ベテラン農家から新規就農者まで、大好評だった。



【1997（平成9）年6月号】
全面カラー化へ。作物の姿や病害虫、田畑のようすはカラー写真でなければわかりにくいということから、本文の全面カラーに踏み切る。



【1988年（昭和63）年9月号】
「復刊500号記念」として「食べものと農業が世界を救う」を特集した。